

第四六章 キリストの再臨

I 再臨の重要性

再臨については、12 章及び 13 章で詳しく学んだ。この事では王国設立のために再臨されることを、預言の計画の中の一つの重要な出来事としてとらえていく。

旧約聖書と新約聖書の両方において、王国設立のためのキリストの再臨の重要性は多くの箇所を示されている。キリストの再臨はそれに続く王国の教えとともに、聖書の進展の核心そのものであり、預言の多くはこの偉大な主題を中心にしている。それゆえ、再臨の教理は、聖書理解に大きな影響を与える。キリストの再臨について正しく学ぶことは、このような点からも大切なことである。

II 再臨についての旧約聖書の預言

教会の携挙は新約聖書の教理であって、旧約聖書には一度も出て来ない。しかし、再臨は旧約聖書の多くの箇所に深く根ざしている。

おそらくキリストの再臨に関する預言の最初のものは申命記 30：1-3 であろう。3 節の「帰らせ」という表現はこの状況に神が介入なさる行為を示し、聖書の後のほうと照らし合わせると、明らかにキリストご自身の帰還と結び付けられている。

詩篇は旧約聖書の礼拝の書であるが、しばしばキリストの再臨に言及している。詩篇 2 篇は神が王を立てられたことを示す。また、詩篇 22、23、24 篇はキリストを羊のために命を捨てる良い牧者（ヨハネ 10：11）ご自分の民のために生きて執り成しておられる大牧者（ヘブル 13：20）忠実な牧者たちに報いるため、栄光の王として来られる大牧者（I ペテ 5：4）として提示している。また、シオンからの統治が詩篇 50：2 に描かれている。詩篇 89：36 はキリストの王座が再臨に続いてダビデの契約を成就するものとして確立されることを語る。詩篇 96 篇は神の誉れと栄光を描いた後で、確かに主は来られると語る。詩篇 110 篇は神の右の座におられるキリストを示し、敵をも支配する力がシオンから出て行く日が来ることも予告されている。

大小預言書の重要な主題でもある。イザヤ 9：6、7 は、ダビデの王座でキリストの主権は決して終わることがないと書かれている。11 章、12 章にはキリスト再臨の結果の詳しい有り様が書かれている。イザヤ 63：1-6 には再臨の際の地上でのキリストのさばきが描かれている。ダニエル 7：13、14 は再臨の明確な描写を示す。ゼカリヤ 2：10、11、8：3-8、14：1-4 にも再臨の際の描写がなされている。

このようにキリストの再臨はある人達が言うような過去のものであるとか、聖徒の死の際に起こる、などというような霊的な体験に置き換えられるものではなく、再臨は世界の歴史の大いなる終結であり、キリストがご自身が命をかけて買い取られたこの世をご自分のものとするためであり、キリストに治められることを拒絶するこの世に対して、力と権威を行使するために来られるのである。

III 新約聖書におけるキリストの再臨

旧約聖書ではキリストの第一の来臨と第二の来臨の預言がしばしば混同されていた。しかし、新約聖書において、キリストの第一の来臨は既に起こっており、両者を見分けるの

に問題はない。しかし、携拳と王国設立のための再臨については意見の分かれるところである。預言の字義的解釈と預言の細部までを一貫して考慮に入れるなら、患難期後で王国前の再臨が有力である。

再臨に関する新約聖書の言及はたくさんある。少なくとも 20 の箇所を新約聖書啓示の主要な要素を提供するものとして選び出すことができる。

(マタイ 19:28、23:39、24:3-25:46、マルコ 13:24-37、ルカ 12:35-48、17:22-37、18:8、21:25-28、使徒 1:10-11、15:16-18、ロマ 11:25-27、I コリ 11:26、II テサ 1:7-10、II ペテ 3:3-4、ユダ 14-15、黙示 1:7-8、2:25-28、16:15、19:11-21、22:20)

さらに注目すべき主要な点に注目するならば、キリストの再臨に関連する預言の字義通りの解釈は、それが千年にわたる地上でのキリストの統治を確立する一連の出来事の序幕であることを明らかにする。そればかりでなく、携拳と地上再臨を区別するのにも役立つ。また、再臨はキリストご自身が帰って来られるのであること、キリストはからだをもって再臨なさることが示されている。さらに以下の点があげられる。

- 1 地上再臨は目に見える栄光に満ちたしるしである。
(使徒 1:11、マタイ 24:30、黙示 1:7)
- 2 キリストの再臨は地上と密接に関連しており、シオンと関連している。このシオンは実際のエルサレムの町を指している。
(詩篇 14:7、20:2、53:6、110:2、128:5、134:3、135:21、イザヤ 2:3、ヨエル 3:16、アモス 1:2、ゼカ 14:1-4、ロマ 11:26)
- 3 キリストの再臨には聖い御使いと、聖徒がつき従う。(マタ 25:31、黙示 19:11-21)
- 4 明確に表明された再臨の目的は地をさばくことである。(詩篇 96:13) さばきに関しては後の章で詳しく学ぶ。
- 5 キリストの帰還の目的は、患難時代に殉教を免れた人達を解放することである。
(ルカ 21:28、ゼカ 14:4)
- 6 キリストの再臨は新しい霊的状态の始まりとなる。
(ロマ 11:26-27、エレ 31:31、34)
- 7 キリストの再臨はダビデ王国の再興という中心的目的をもっている。
(エゼ 37:24、ルカ 1:31-33)

全体として見るとキリストの再臨は、大患難の終わりに起こり千年王国の始まりを告げる重大な出来事である。それはキリストご自身による、からだをもっての帰還であって、全世界に見られ、神の栄光の現れとなるであろう。それは天上よりも地上に関連するもので、特にエルサレムのオリーブ山に関連がある。キリストは再臨される時に、聖い御使いと聖徒たちを伴って来られる。帰還の目的はこの世をさばき、ユダヤ人、異邦人の区別なく主を信じた者たちを解放し、イスラエルとこの世に霊的復興をもたらし、ダビデの王国を再建し、この地上に千年の間キリストの王国の時代という最後の聖約期を導入することにある。